行動計量学会報

日本行動計量学会事務局
〒152 東京都目黒区大岡山２－１２－１
東京工業大学 工学部 繁桝研究室
発行 理事長　水野 欽司
題字　林 知己夫
編集　杉山 明子

気になる言葉

海野　道郎

折りにふれ思い起こされ、ある時は自分を叱り、ある時は自分を励ます――そのような言葉をいくつか抱きながら、人は生きているに違いない。社会学の分野で数理的・計量的分析をする私にとって、安田先生の言葉はその一つだ。「現代の数理社会学者は、社会関係・社会過程の数理モデルの作成に努力している。その努力自体は、決して否定されるべきではないが、それらのモデルはほとんどすべて、社会関係の属性－ウェーバーの言葉でいえば意味内容－が不変であると仮定している点に、現実からの距離をわれわれは感じないわけにはいかない。一つの社会関係は、他の社会関係に転化することがあり、また他の社会関係を派生することがある。」

安田三郎先生が世を去ったのは昨年10月のことだが、脳腫瘍の手術を受けたのは1982年初頭であり、手術中の出血のために、それ以後一度も意識を回復させることがなかった。したがって、最後の論文「ウェーバー社会関係論の解釈と批判」は1981年に刊行されたものであり、先の言葉はその中に記されている。

それから10年が過ぎた。そして私は未だに、この言葉に問いかけられている。それが、数理社会学を知らない人の言葉であったなら、あるいは無視できたのかもしれない。しかし、それは他ならぬ安田先生の言葉だった。

安田三郎先生は、社会学の分野にあって、第２次世界大戦後の日本の研究・教育を先頭に立って推し進めた。林知己夫先生や西平重喜先生ら「国民性研究」グループとも連携しつつ「社会階層と社会移動全国調査」を行ない、その中から、計量社会学の金字塔『社会移動の研究』（東大出版会、1971）を生みだした。先生はまた、社会調査法に関する論文や教科書を数多く著した。それは、社会学の分野において、社会調査法の標準とみなされている。『数理社会学』（東大出版会、1973）と題する教科書をわが国で初めて編集したのも、安田先生であった。おそらくは社会学者を代表するような形で、行動計量学会の設立にも参画され、役員も勤められた。

その先生が発した言葉だけに重みがある。この10年の間に、数理社会学も変容した。「行動モデル」から「認知モデル」へという動きがますます顕著になり、それとともに、伝統的な理論社会学の課題に取り組むことが可能になってきた。しかし、先に記した安田先生の言葉は、未だに解決されていない。もうしばらく、それは私にとって、「気になる言葉」でありつづけるだろう。

［注］安田先生については、詳しくは、数理社会学会機関誌『理論と方法』6(1):89-120の特集「安田三郎教授／人と業績」を参照。

（うみの　みちお、日本行動計量学会理事、東北大学文学部行動科学研究室）

第6回学会賞について

学会賞選考委員長　池田　央

１９９１年8月２９日日本行動計量学会第１９回大会総会において、６回目の学会賞受賞式が行われました。

本年度の受賞者として、功績賞に岡山大学の脇本和昌氏、優秀賞に鉄道総合研究所の小笠原春彦氏と名古屋大学の村上隆氏のお二人が選ばれました。

脇本氏は理事、編集委員、第１７回大会実行委員長などをはじめとする行動計量学会に対する長年の貢献と、「星座グラフ」の例にも見られるような、だれにも分かりやすい統計教育の指導普及や岡山県での長年にわたる調査研究の功績が評価されました。

また優秀賞の小笠原氏は共分散構造分析モデルについての新しい試みやその実際への適用研究、順序カテゴリーの評定尺度値のパラメータ推定法に関する研究などが受賞対象となりました。

また村上氏に対しては、大学入試データや日本語能力認定試験データなどの実際的研究のほか、多相（とくに３相）データの階層的主成分分析法を中心とする一連の研究が受賞の対象となりました。

これを契機に各受賞者の御研究の一層の大成をお祈りします。

（いけだ　ひろし　日本行動計量学会理事、立教大学社会学部）

功績賞を受賞して

脇本　和昌

名古屋大学で開催されました第１９回大会で功績賞を頂き、大変光栄に思うと共に恐縮しております。私の専門は統計学ですが、今回は特に統計グラフィックスとその行動計量学への応用研究を主な受賞理由に上げていただき心より感謝しております。この研究は、１９７２年に当時スタンフォード大学のハーマン・チャーノフ教授が岡山大学に滞在され、「顔型グラフ」の提案をされたころに始まりますから、かれこれ２０年経ちます。今だに、その理論付けの難しさに苦しめられております。

また、岡山経済研究所と共同研究で「岡山県民生活行動圏調査」（第１７回大会特別講演でその一部を発表）を１０年にわたってやってきました。１回の調査におけるサンプル数は約１万と莫大で、その実施結果がデータブックとして今度出版され、ようやくこうした地道で実践的な研究の成果が見えてきました。そういう時期にこの調査研究を評価の一つにとり上げていただき嬉しく思っております。

この受賞を機に、初心にかえり気分を一新してなお一層研究に精進し、行動計量学の発展に少しでも寄与したいと思っております。

最後になりましたが、このたび私の受賞につきご尽力いただきました選考委員長の池田央先生、理事長の水野欽司先生に心から厚くお礼申し上げます。

（わきもと　かずまさ　日本行動計量学会理事　岡山大学教養部）

優秀賞を受賞して

小笠原　春彦

このような賞を戴ける事などとは、考えたことすらありませんでしたので、お知らせを受けたときには非常にとまどいました。賞を戴いた時もその気持ちは変わりませんでしたが、とまどいにこれからの可能性の余地があるものと都合よく解釈させて頂きまして、僭越ながら賞を受けさせて戴きました。

大学を卒業して、旧国鉄に就職して以来、適性検査関連の仕事に従事してきましたが、ここで一旦振り返ってみますと、データとデータ解析の方法の間を無定見に行ったり来たりしていた（いる）ように思えます。難しい方法を用いたからといって良い結果が出るとは限らないということは、いまやデータ解析のひとつの常識になっていると考えますが、まだまだ実際にはそうで無い面があるように見受けられます。

私が接する機会のあったすぐれた実践家や経営者は、体験的にそのようなことは承知していて、データ解析における本質とは何かという問いかけを与えてくれています。フィールドから離れた方法論はありえないという考えも、いつも私のよりどころでしたが、これからもデータ及びデータ解析にタックルしながら少しは考えらしいものが身についてくれればと気持ちを新たにしています。このような貴重な励ましを下さいましたことに対しまして心からお礼申し上げます。　（おがさわら　はるひこ　ＪＲ東日本安全研究所）

優秀賞を受賞して

村上　隆

突然のお知らせに、当惑しつつも心から感謝しております。私がこれまで自分なりに努力してきたつもりなのは、第一に、実際的な問題を扱う仕事のグループに参加して、できる限りつきあうこと、第二に、それを通じて知った現場的要請を組み入れた方向に、分析方法を改良していくことです。そうしたプロセスの中では、仲間が何をめざしているかをできるだけ正確に理解することと、データに含まれている情報を可能な限り正しく伝えることが必要になります。分析モデルのサイドからは、抜本的に新しいアイディアよりも、基本的な記述統計に関する共通理解の上で、データと現象領域の理論に関するコミュニケーションが容易にできるような方法が重視されると思います。そうした仕事は、特別な才能に恵まれてなくても、ある程度努力すれば可能であり、実際、多少は貢献できたと自負している仕事もないではありません。しかし、それは学会賞というような形で認めていただける性質のものとは思っておりませんでした。もっと受賞にふさわしい方は、学会内に多数いらっしゃいます。私としては、これを今までの実績に対する承認としてではなく、今後の活動への期待と理解して、一層努力していきたいと思います。そして、これまで私を叱咤し、指導し、支持してくださった多くの方々に、厚くお礼申し上げます。どうもありがとうございました。　（むらかみ　たかし　名古屋大学教育学部）

平成２年度　会計決算報告

平成２．４．１～平成３．３．３１

収入	決算	予算	増減	備考
	円	円	円	
前年度繰越金	4,644,954	4,644,954	0	(注1)
学術定期刊行物補助金	740,000	740,000	0	正会員　6,000円
平成２年度学会費	6,053,850 (注1)	6,000,000	53,850	準会員　4,000円
学会誌売上金	347,684	300,000	47,684	賛助会員　30,000円
預金利子	140,029	60,000	80,029	
雑収入	105,000 (注2)	0	105,000	(注2)
学会賞基金からの副賞	100,000	150,000	△ 50,000	寄付収入 105,000円
計	12,131,517	11,894,954	236,563	

支出	決算	予算	増減	備考
	円	円	円	
学会誌製作費	4,070,424	6,988,338	△2,917,914	(注3)未発行分
和文誌 17巻1号	783,778 (注3)	783,778	0	
〃 17巻2号	561,556 (注3)	900,000	△ 338,444	
〃 18巻1号	0	900,000	△ 900,000	
〃 18巻2号	0	900,000	△ 900,000	
欧文誌 No.27	1,604,560 (注3)	1,604,560	0	
〃 No.28	1,120,530	950,000	170,530	(注4)　円
〃 No.29	0	950,000	△ 950,000	運営委員会　50,000
月例会費用	35,000	120,000	△ 85,000	助成金申請作業10,000
各種委員会活動費	69,440 (注4)	300,000	△ 230,560	学会賞委員会　4,260
学会事務委託費	1,294,495	1,470,000	△ 175,505	学術会議　5,180
管理費	120,000	120,000	0	
発送手数料	977,265 (注5)	1,150,000	△ 172,735	(注5)
新入会員・異動処理	49,750	100,000	△ 50,250	事務連絡費、ｺﾋﾟｰ代、
その他	147,480	100,000	47,480	消費税
人件費	20,000 (注6)	30,000	△ 10,000	(注6)
印刷費	93,082	200,000	△ 106,918	18回大会受付
通信費	822,235 (注7)	920,000	△ 97,765	(注7)
消耗品費	1,297	5,000	△ 3,703	学会事務ｾﾝﾀｰ　円
会合費	63,243	100,000	△ 36,757	発送分　789,205
雑費	154	10,000	△ 9,846	事務局通信費 33,030
予備費	0	1,301,616	△1,301,616	
選挙費用	84,048	300,000	△ 215,952	
学会賞副賞	100,000	150,000	△ 50,000	
次年度繰越金	5,478,099			
計	12,131,517	11,894,954	236,563	

平成３年度　予　算

平成３．４．１～平成４．３．３１

収　　入	平成３年度予算	平成２年度実績	備　　考
年度繰越金	5、478、099円	△4、644、954	
術定期刊行物　補助金	740、000	740、000	
成３年度　学会費	6、000、000	6、053、850	
会誌売上金	300、000	347、684	
金利子	60、000	140、029	
収入（注1）	0	105、000	（注1）寄付金および広告等収入
会賞基金からの副賞（注2）	150、000	100、000	（注2）功績賞および優秀賞
計	12、728、099		

支　　出	平成３年度予算	平成２年度実績	備　　考
会誌製作費	7、508、613円	4、070、424	
和文誌 18巻1号（注3）	1、265、773	783、778	（注3）平成２年度未発行分
〃　18巻2号（注3）	900、000	561、556	
〃　19巻1号	900、000		
〃　19巻2号	900、000		
欧文誌 No.29（注3）	1、342、840	1、604、560	
〃　No.30	1、100、000	1、120、530	
〃　No.31	1、100、000		（注4）編集委員会、運営委員会、
動計量学ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ費用	120、000	35、000	刊行物委員会、学会賞選
種委員会 活動費（注4）	300、000	69、440	考委員会、学術会議等
会事務委託費（注5）	1、520、000	1、294、495	（注5）（財）日本学会事務センター
管理費	120、000	120、000	への委託費
発送手数料	1、150、000（注6	977、265	（注6）1、200名、年8回発送
新入会員・異動処理費	100、000（注7	49、750	（注7）新入会員　70名
その他	150、000（注8	147、480	異　動 250名
件費	50、000	20、000	（注8）事務連絡費、コピー代、
刷費	200、000	93、082	リスト打ち出し料、
信費（注9）	920、000	822、235	消費税等
耗品費	5、000	1、297	（注9）学会事務センターに
合費	100、000	63、243	おける郵税を含む
費	10、000	154	
備費	1、844、486	0	
挙費用	0	84、048	
会賞副賞	150、000	100、000	
計	12、728、099		

研究集会のお知らせ

★統計的グラフィックスとその応用(白旗慎吾、脇本和昌):
1991/11/5-7:富士通関西ｼｽﾃﾑﾗﾎﾞﾗﾄﾘにて:申込は大阪大学教養部統計学教室白旗慎吾へTEL.06-844-1151,FAX.06-843-7194

★ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ・ﾘｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ理論とその応用(田栗正章、井上隆勝):
1991/11/26-28:千葉大学理学部にて:申込は日本大学生産工学部井上隆勝へ TEL.0474-74-2839,FAX.0474-73-1227

★マルチウェイデータ解析の理論と応用に関する研究発表会(代表吉沢正):1991/11/28-29:統計数理研究所にて:問合せは大学入試センター研究開発部岩坪秀一へ TEL.03-3468-3311

会員数

(1991.9.28.現在)

名誉会員	1名
正会員	1、010名
準会員	54名
賛助会員	26名

会員による著書一覧　（１）　1990/3-1991/9

1990/3：芝祐順・南風原朝和：行動科学における統計解析法：東大出版会
1990/3：林知己夫・水野欽司編著：計量生物学・行動計量学：放送大学教育振興会
1990/4：柳井晴夫・繁桝算男・前川眞一・市川雅教：因子分析ーその理論と方法：朝倉書店
1990/4：上田尚一：パソコンで学ぶデータ解析の方法Ｉ：朝倉書店
1990/4：海野道郎･中村隆:社会調査のためのデータ分析入門 社会統計学:ﾊｰﾍﾞｽﾄ社
1990/5：柳井晴夫・岩坪秀一・石塚智一編著：人間行動の計量分析ー多変量データ解析の理論と応用：東大出版会
1990/5：岡太彬訓・今泉忠共訳：３元データの分析・多次元尺度構成法とクラスター分析：共立出版
1990/10：佐久間昭・後藤昌司他訳：医薬品開発過程における統計的方法：MPC
1990/10：朝野熙彦：マーケッティング・シミュレーション：同友館
1990/11：猪口孝：交渉・同盟・戦争・東アジアの国際政治：東大出版会
1991/1：Shousuke Suzuki & Robert E.Roberte：Method and Applications in Mental Health Surveys：The Todai Health Index：東大出版会
1991/2：中島直忠編訳・岩坪秀一・池田輝政・山田文康他訳：学力向上の目標と方策：教育開発研究所
1991/4：竹谷誠：新・テスト理論：早稲田大学出版部
1991/4：林知己夫・林文・青山博次郎他：統計学の基本：朝倉書店
1991/4：林大・村上隆他：日本語テストハンドブック：大修館
1991/6：上田尚一：パソコンで学ぶデータ解析の方法Ⅱ：朝倉書店
1991/6：多尾清子：統計学者としてのナイチンゲール：医学書院
1991/8：高木廣文･三宅由子：よくわかる医療･看護のための統計学入門：ﾒﾃﾞｨｱ出版
1991/9：芝祐順編：項目反応理論ー基礎と応用ー：東大出版会

*編集後記：*会報５３号の欧文誌編集幹事富山氏の氏名･所属に誤りがありました。正しくは富山慶典　常磐大人間科学部です。お詫びして訂正します。「会員による著書」「研究集会」に関する情報をお寄せ下さい。(め)